

かも、誰も怖がつてくれなかつたら
どうしようとか……。

萩尾 「汐の声」は何度も読んでい
るんですけど、あるときねえ、ぼー
っと夜中にねえ、ああなんか読もう
かなと思つたときに「汐の声」があ
つてねえ……。

——わー、夜中に読んじゃダメです。
萩尾 ばらつとめくつたらねえ、止
められないんですよ。「やめよう！
これ読んだら、もう眠れなくなる」
つて。

——でも止まらない。
萩尾 そう、手が震えて心臓バクバ
ク(笑)。「怖かつた、読むんじやな
かつた!!」つて(笑)。どうしやう
と思ひました、もう電気点けて寝
ましたよ。

——怖かつた、面白かつた。(笑)。
山岸 そこまでして読まなくても
(笑)。でも、ありがとございます。
萩尾 だから、山岸さんの怖い作品
の中では「汐の声」がトップですね。
山岸 そうなんですかねえ。

萩尾 あとね、霊的に怖い話じやな
いけど、心理的に怖い話が「天人唐
草」です。

山岸 怖い……か。

萩尾 すごく面白んだけど……、
そう、お父さんが出てくると必ず背
景がベタなんです

山岸 そうでしたっけ？ それは私、
気付いてませんでした。

萩尾 画面はどんな感じになつて
いるのかなつて、何気なく読んでい
たら、最初のお父さんのページの背
景がベタだったのね。次のページも
やつぱりベタだった。最後まで見た
ら全部ベタだったのね。

——だからお父さんが不気味にう
つるんですね。秘密がわかつた。

萩尾 山岸涼子の秘密が(笑)。
山岸 全然気付きませんでした。自
分では。

萩尾 いや、気付いていたらランダ
ムにしたいと思います。無意識のすこ
さつてやつですね。

山岸 あれはほんとに、同じ感じの
女性に出会つたんですよ、羽田空港
の千歳行きで。ほんとに。「ぎえー
ー」と声が聞こえて。えつと思つ
て振り返つたら、作品に描いたのと
同じ服装してるんですよ。すごい帽
子をかぶつて、濃化粧の若くもな

い女性が、「ぎえーつぎえーつ」
と言いながら歩いてきて。周りみん
な引いちゃつて。それを見た瞬間
「あつ、私の将来の姿であれ？」
と(笑)。

一同 そんな(笑)。
山岸 こう一瞬に、ストリーがば
——つと浮かんで。

——それからすぐに描かれた？

山岸 はい。変な話なんですけど同
じ北海道出身のマンガ家さんで、何
年もずつと電話連絡すらなかつた
方から、突然電話が掛かつてきて、

「山岸さん、あの人のことを教えた
のは私だよな？」つて言うんですよ。

一同 え——つ！
山岸 「だつて、何年も話してなか
つたじゃない」つて言うのと、「えつ
そうだつて、だつて私見たよ」と言
うんです。彼女もしょつちゅう北海
道に帰つてるので、同じ日にいた
のが、もしくは別の日にその人がま
たいで、ぎゃーぎゃー言つていたの
か。ひよつとして彼女は、しょつち
ゅうああいうふうには、あの空港の千
歳行きのあたりにいるのかも？

萩尾 でも飛行機には乗れるんだ。

声か漏れてるのに、気が付いてない
のかも。

山岸 気付いてないと思う。でない
とあは歩けない。

萩尾 「天人唐草」を描かれるちょ
つと前に、私、山岸さんにお会いし
たんですよ。で、「今度『週刊少女
コミック』に描くんですよ？」つ
て言つたら「そうなのよ、でも悩ん
でるの。いまの作品、描いていいも
のだろうかと思つて」つて。で、
「何でも描いてください！」つて言
つた。

一同 (笑)。

萩尾 それで、発表されたのを読ん
で、悩んでいた理由がわかつた
(笑)。

——全国何十万の少女に、これを与
えていいのかが否かで悩んでいた
(笑)。

萩尾 面白いのは、(主人公の)彼
女がお茶をうまく出せないから、そ
れですごく落ち込んでいたら、職
場の男の人に「見栄張りがね」つ
て言われて。私はこんなに苦しんで
るのに何を言うか、つて感じで。あ
そこらへんがすごく面白くて。あの



『テレブシコーラ』
メディアファクトリー
第1部全10巻／第2部全5巻

男性の良さがわかれば、彼女はよかつたんですよ。でもお父さんの呪縛があまりにも強くてねえ。

山岸 ほんとに、あなたは読み込んでくださってありがたいです。なのに私ときたら……。

萩尾 いやいやとんでもない。

山岸 何度も言いますが、怖すぎて読めなかつたんですよ。それは私の敗北宣言です。

第3部が読みたい！ 「テレブシコーラ」

——お話ががらっと変わってしまっていますが、萩尾先生は少し前「テレブシコーラ」の話をよくなさっていましたね。

萩尾 「テレブシコーラ」の第1部の最終回でしょう。千花ちゃんがあ

んな急に亡くなって……。六花ちゃんが学校にいるときに、バレエの先生が来て。「驚かないでね、千花ちゃん……」って言って、その事件が報告されて「つづく」になるじゃないですか。で、私、「ええ!?」って思ってます。で、まだね、次の回があるから、誤解とか勘違いで、実は……という展開ではないか?と

思ってたんですけど、どう考えても解せないって思ってます。「そうだ、私読み違えたんじゃないから」って、もっかい起きて、1階に下りて、電気点けて、読んだんですけど、やっぱり書いてある通りで千花ちゃんが……。ああ、どうしようって(笑)。

山岸 そのことは前から決めてたんです。だから、おばあさんが危篤であるという状況と並行して話を進めていってたんです。でもこれを描くとき、こんな残酷な話になっちゃってすいませんと思えました。

萩尾 なんかそういうものかもしれないけど、ほんとにかわいそうだった。千花ちゃんをいじめてた子は

これからどうなるのか、とか、六花ちゃんは復讐に行くんだろうかとかね。

山岸 私の計算外だったんですが、千花ちゃんの性格をあそこまで愛すべきキャラクターにするつもりがなくて。でも、六花ちゃんがあまりに欠点多いものだから、これをフォロワーする人間が必要になって。千花ちゃんが、フォロワー役になってしまったんですね。ノンナのときにはそれはミロノフ先生の役回りだったのですが。最初は、お姉ちゃん(千花ちゃん)はバレエ一筋で、六花ちゃんのことなんかかまっていられないというか、子どもらしい子どもにするつもりだったんです。それが、フォロワー役として千花ちゃんがどんどん素晴らしいお姉さんになっていって。で最後、自殺のところまでいったときにね、千花ちゃんをいい役にしてしまった分、読者は納得しないだろうな、と。

萩尾 最初、(千花ちゃんが)怪我しますでしょう、あのときから考えていらした?

山岸 それはもちろん、最初からで

す。

萩尾 だからほんと、あの、こういうこと言っちゃいけないけど、つかみぐうまいねえ!

——そちらですか(笑)。作家です。でもほんとにそうですよ。

山岸 いや、そう言って頂いて嬉しいです。

城 だつて、萩尾家ではみんなでディスプレイになってるから。あの子が整形したんじゃないかって。

——空美ちゃん。

萩尾 私は反対派で、こっち(城さん)は賛成派で。

山岸 そこは言えないところなんですよ。……実は、第3部はあるんです。ストーリーはパッチリ、あるんです。だけど、描けないんです。理由も言えない。

——ええっ、無理にお聞きすることはしませんが、心の中におさめたまま持っていないでください。

山岸 私も困っているんです。「あれえ、このことをみんなに話らずに終わるのか」と。

萩尾 私もね、だんだん自分の絵のデッサンがぐしゃぐしゃになり始

めたときに、これはやばいなと思って、原作者になろうかしらと思っただことがある。

山岸 えー、やめて！ 萩尾さん。私は、私はね、この第3部を描けるのは萩尾さんぐらいかもしれないって思ったことがあるのよ。ほんとよ。

萩尾 なんと！ 恐れ多い！ いやいや、それは絶対無理だから。

山岸 そんなことない！ 描けます、あなたなら。

—— なんだかすごい展開に……。

山岸 もし自分が交通事故に遭って、目が見えなくなると絵が描けなくなったらどうしようと思ったときに、そうか、原作を萩尾さんに渡して描いてもらえばいいんだ、って……描いてくれるかなって、一時期そんなふうと考えてたことがある。

萩尾 なんていうか、光栄なっていうか。

山岸 勝手な妄想でごめん。

萩尾 でもなんか、チェックいっぱい入れてもらわなきゃ。

山岸 何をおっしゃる。あなたが描

けば原作の何層倍もの花が咲きます！

共時性のフシギ

—— お互いの作品で、一番好きなのは何ですか？

萩尾 難しいけど……私はね、「日出処の天子」。厩戸王子のすごいファンなんです。ちよっとね、毛人がぼーっとしてるけど。



『日出処の天子』
白泉社文庫
第7巻

—— ぼーっとしてますね。もっとぼーっとしてなかったら、厩戸王子はもうちよっと幸せだったかもしれませんね。

山岸 すみません(笑)。

—— もしそうだったら、ああいう能力を発揮できなかったかもしれないけど。

萩尾 あれを読んだことで、飛鳥の

歴史をものすごくよくわかって、それから歴史の本を読むと、キャラクターがばっばってあの顔で出てくるんです。

—— (笑) 山岸先生はどうですか。

山岸 私は萩尾作品を読めてないってことが全てだと思います。バレエものだって、実はですね、読むの怖いと思ってたのに、「青い鳥」を読んじゃった。「いかん!!」と思って閉じて(笑)。この先バレエものが描けなくなっちゃうと思いましたが。

萩尾 バレエはほんとに、山岸さんがすごいので。そういえば、「青い鳥」を描くときにすごい不思議なことがあったんです。あなたがニジンスキーの話を描いてるとき。

山岸 「牧神の午後」？

萩尾 そう、そのとき私が「青い鳥」を描いて。ちよっと「牧神の午後」と「青い鳥」の発表時期が同じくらいだったの。それで「牧神の午後」を読んだら、サブの悪役がいるじゃないですか。ワスラフに嫉妬している、髪の毛くるくるした、名前がないくらいの人。サブキャラなのだけ

ど、いい役なのですよ、山岸さんの。は。

山岸 影のほうかしら。あー！ はいいい、ボルムですね。

萩尾 「青い鳥」の主人公のダンサーが、そのキャラクターと、性格と髪の毛のイメージがなんとなく似ていまして(笑)。才能ある人に嫉妬するキャラクターを「青い鳥」で描いてたんですけど。ありゃあ、と、びっくりでした。

—— 偶然ですね。

萩尾 はい、ユングの共時性ですね。ちよっと発表時期が同じだったので、あらら、よかつたとはって。これ2、3ヶ月後だったら、私、まねじゃあないけど、まねしてるって言われるかも？ って気にして、描けなかつたかなあ。あ、でも、ちよっと髪型変えればいいのかな？



『青い鳥』
小学館ブチフラワーズコミックス
2011年(原書は文庫「ローマの道」に収録)

——読み比べてみなければ。

山岸 私はい、あなたの本はできるだ
け手に取らないようにと思ってた
のに、どなたかすごくおせっかいな
方が持ってきたんですよ、「青い
鳥」。「萩尾先生のパレエものもすこ
いです」って。私、「知ってるわよ」
とか思いながら(笑)。

——すごいのは知ってる(笑)。

山岸 それを怖いからそーつと見
て。あなたやっぱ、こういうふう
に描くんだと思って。また絵がすこ
いし。

萩尾 いやいや、パレエの絵は、山
岸さんのほうがすごいです。筋肉、
筋骨、バランスと、ちゃんと、人
体に力が入ってたり抜けたりして
るのをきっちり描いています。や
はり、パレエやってらっしゃるか
ら、本格的。指先は、力をスーと抜
くなんて、私、山岸さんからお聞き
したんですよ。それは昔のことで、
こういう絵、いまもう描けませんか
ら。私は、絵がだめ。

山岸 萩尾さんから、絵がだめなん
てセリフを聞くとはい！

が。頭がでかくなったり。肩関節が
ずれてたり。
山岸 そんなことない。そんなこと
ない。
城 いや、最近大変なんですよ。
萩尾 ほんと。私ね、絵のことで
最近わかつたことがあるんですよ。
というのね、あの、なんていうか
な、ほんとにね、描いてよくわか
んなくなっちゃうの。どうもバラ
ン狂ってるらしいんだけど、どう狂
ってるかわからない。アシちゃん
に、「どう思う？」って聞いて、「肩
幅がせまい」とか「左右が逆」とか
ね、色々言ってもらうの。「どうし
てこうなっちゃうのかな、なんか描
いても描いても描けないのよね」っ
て言うと、「脳が疲れてるんだらう」
って。

山岸 それは、わたくしはしょっち
ゆうですかわかります。その狂っ
てる絵にずーつと囚われて、「あれ、
あれ」ってちよつとずつ微調整して
も全然戻れないんですよ。そういう
ときはやっぱ、ほつといてです
ね、5分くらい別のところに行っ
て、見るとね、「あーすごいデッサ

ン狂い！」とわかる。それをしょつ
ちゅうやればいいんですけど、でき
ないものだから、いつもデッサンの
狂った絵を描いちゃうんですけど。
いや、あなたに絵の講釈できる私で
はありませんが。

萩尾 人の絵を見ているときはど
うしてそうなかわからなかった
けど、自分になってから、脳が疲れ
てるんじゃないかなって。いま一所
懸命脳のマッサージしてる。

——どうか、お医者さんに行って調
べてください。

城 だからやっぱ、20代、30代
頃のエネルギーって、ほんつとに膨
大なんですな。

山岸 ほんとそうですよな。

萩尾 若いうちに仕事はしなきゃ。

山岸 いまの若い人がもう疲れた
とかで描かないのを見ると、「ちょ
つとちよつと！」と。「死に物狂い
で寝ないで描くべき時期があつて
いいのよ」と思うんですけど。

萩尾 体力あるから。回復できる。
そのあと年とって疲れてくると、し
まった！と思うから。

山岸 そのあと描こうと思つても

描けない時代が来てしまうんです
よねえ。

——でも、描いてらっしゃるじゃな
いんですか。みんながふたりを目指し
ていますよ。

萩尾 それはアシスタントがデッ
サン修正してくれるからですよ。

山岸 萩尾さんのデッサンを修正
できる人なんじゃないですか。

——山岸先生にはアシさんはいら
っしゃるんですか？

山岸 私の場合はローターシオン
が常に入れ替わるんですね。それは
いい意味もあるし困る場合もあり
ますけど、常に若いアシさんなの
で、新しい情報がいつも入りますよ
ね。

——何人ぐらいいらっしゃるん
ですか？

山岸 多くても4人、どうかすると
2人、3人。仕事ははじめの頃、ひ
りだけが来て、最終的に4人になっ
たりとか。そんな感じです。

萩尾 だんだん増やしていく。うち
と同じ。うちお布団3つしかないか
ら。

山岸 うちなんていま1組も用意

してないんです。その日のうちに必ず返す。それが11日の地震の日に、アシさんふたりが帰宅難民になりまして。だから初めて泊めなくてはいけなくなつて困りました。2階のじゅうたんが少しふかふかして着る上に、シートだけひいて毛布と薄掛けをひとつずつ分けたりと大変でした。

萩尾 まだお家が東京都に近いから。うちはすこい田舎だから、来たら絶対泊まりなので。

山岸 お宅はそうなりますよね。うちは今回、3人いたんですけど、ひとり運よく近くの子だったんで帰つて。あとのふたりはどうしても帰れないというんで泊めたんですけども。

——無理して帰らなくてよかつたですね。駅まで行って帰れなくて職場に戻つて人が何人もいました。

山岸 大変だったですね。

——青梅街道沿いが両端とも、帰る人たちの行列ですごかつたです。

山岸 私なら、間違つた方向を歩いていくと思う。絶対に自分でたどり着けない。

一同 (笑)。

山岸 本来金曜日にはバレエのお稽古の日で都心に行つてるんです。あそこからわが家になんか、絶対帰れません。

「これから」

——お互いに今後描いてほしい作品は？

萩尾 いやもう何でも。でもじゃあ、やつぱり「テレビシコーラ」の第3部を……。

山岸 私も、何でも待つてます。私は今回の「春の小川」と今月掲載の「夜の河を渡る」を両方読んで、「うわあ萩尾さんさらにすごくなっていくぞ」って思いました。これからますます意気盛んだらうと。

萩尾 とんでもない。脳が疲れて。私は、番外編で「空美ちゃん一家物語」。あのおばさんの先生はどうなつた(笑)。

一同 わー、読みたい!

山岸 うーむ。

城 私はい両方の先生を見て思うん

ですけど、山岸先生の物語だと、大体どんな人も「あ、この人こう考えてるんだな」とかわかつて、主人公とか脇の人になりきつて読める。で、どうなるの、どうしましょ!?

って感じでものすごい感情移入して。でも、萩尾先生のはね、時々わからない、この人(笑)。何を考えてるのかって思う。「春の小川」だって、あのお父さんと恋人とか、わからない、不思議な人種(笑)。お母さんが亡くなつてちよつとあとに、家に自分の恋人を入れるお父さん。それに便乗する恋人って……。

しかもなんか悪気がない。山岸先生のマンガは、そういう意味で迷うことはないんですよ。

山岸 わかります。萩尾さんのは萩尾さんにしか描けない。

(笑) それはどつちも同じですが

山岸 私は「春の小川」のお父さんをね、感心したの。ああいうお父さんを登場させられるというのは、ほんとに自立した人じゃないと。私も、「男の人のその部分を認められない!」とずっと思つてきたけ

ど、それはね、自分が男性に依存しているからなんです。それをあのように描けるのはね、すごい。大人だなあと感心しました。

萩尾 突き放してるからかも。もうしょうがないって。

山岸 突き放せるのが偉い。最近私もやつとあきらめたので(笑)。そうなんだよな、男の人には男の人の事情があるのよねって(笑)。

——なるほど、深いですね。今後のおふたりの展開がますます楽しみになりました。今日は本当にありがとうございました。

(2011年3月29日、新宿京王プラザホテルにて収録)

【※1】桐島洋子、1937年生、作家、エッセイスト。女性のあたらしい生き方を示し、多くの同性の賛同を得た。

【※2】ささやなえこ、1950年生のマンガ家。1969年にささやなえこからなえこに改名。代表作に、児童虐待を扱った「凍りついた瞳」など。

【※3】大泉、1970年〜1973年頃、竹宮恵子や萩尾望都らは練馬区大泉にあるアパートに暮らしていた。そこには連日、新しい才能をもつ多くのマンガ家が集いサロンのような賑わいを見た。

【※4】竹宮恵子、1950年生。代表作に「風と木の詩」、『地球へ……』。

山岸・萩尾 作品クロス年表

同じ年デビューのふたり、描かれている作品もそれぞれ星の数。そこで、デビューから現在までの主な作品と、ふたりのクロスポイントをまとめてみました。

補足	山岸涼子 主要作品	萩尾望都 主要作品	補足
デビュー。これ以降「りばんコミック」で20作品発表	「レフトアンドライト」(りばんコミック5月号)	「ルルトとミニ」(なかよし夏休み増刊号)	デビュー
「ひまわり咲いた」(りばんコミック2月号) 初掲載作品	「ミスめがねはお年ごろ」(りばんコミック2月号) 「春には青い芽が」(りばんコミック4月号) 「ひまわり咲いた」(りばん7月号付録) 「ラグリマ」(りばんコミック9月号) 「水の中の空」(りばん10月号付録)	「クールキャット」(なかよし2月号) 「輝榮会社」(別冊なかよし「紅色のマリ」特集号) 「ピエール」(週刊少女フレンド増刊「サインはV」第7巻) 「アキケケケケ」原作・ノ木アヤ(なかよし9・10月号別冊付録)	「ベルとマイクのお話」(初) 描きためいた作品が半館で次々と掲載されたため71・72年は短編多数「かわいそうなママ」少年の優しさは純真さがもたらした。ひとつの死の物語
「両ヒコモス」(絵柄が変わった作品。萩尾ほか多くの漫画家がアシスタントしている) 「アラベスク」(ロシアバレエに取材した本格パレエマング。萩尾が背景などアシスタントしている) この年、萩尾と大泉で初対面	「冬の旅」(りばん1月号) 「白い部屋のふたり」(りばんコミック1月号) 「ハロー・エブリボデー」(りばん4・5・6月号) 「両ヒコモス」(りばん8月号) 「ネジの叫び」(りばん9月号) 「アラベスク」第一部(りばん10月号) 73年4月号	「ポーチで少女が小犬と」(COM1月号) 「ベルとマイクのお話」(週刊少女コミック3・4合併号) 「雪の子」(別冊少女コミック3月号) 「塔のある家」(週刊少女コミック12月号) 「かわいそうなママ」(別冊少女コミック5月号) 「精霊狩り」(別冊少女コミック7月号) 「小夜の綾うゆかた」(週刊少女コミック夏の増刊号) 「10月の少女たち」(COM10月号) 「11月のギムナジウム」(別冊少女コミック11月号)	この年、山岸と大泉で初対面
「ゲッキング・ゲーム」(ミシェル・デュトワシリーズ第1作。以降、77年まで不定期に連作)	「ゲッキング・ゲーム」(別冊セブンティーン11月号)	「あそび玉」(別冊少女コミック1月号) 「すきとおった銀の髪」(別冊少女コミック3月号) 「ポーの一族」(別冊少女コミック9・12月号)	9月から、初のヨーロッパ旅行。萩尾、竹宮、山岸、増山が参加
「ゆうれい殿」(萩尾ほか竹宮夏子、さきやなえことなど、大泉に集まっていた作家が登場。怖い話のエッセイマンガの先駆け。手ぬぐいをかぶった幽霊が登場)	「だれかが風の中で」(別冊セブンティーン1月号) 「赤い髪の少年」(別冊セブンティーン5月号) 「ゆうれい殿」(りばん6月号付録) 「パロッコ・ゴチェルト」(フアンイー9月号) 「ティンカー・ベル」(テラックスマーガレット秋の号)	「メリベルと銀のぼら」(別冊少女コミック1・3月号) 「小鳥の巣」(別冊少女コミック4・7月号) 「キャベツ畑の遺産相続人」(週刊少女コミック15号) 「オーマイ、ケセイヤ セフ」(週刊少女コミック21号)	「ポーの一族」(永遠の時を生きるパンパネラ、ポー一族の栄枯と悲哀を複合的な視点、時間軸で描いたファンタジー) ※「メリベルと銀のぼら」では山岸がアシスタント。とあるパーティーシーンのドレスは
	「わたしの人魚姫」(別冊少女フレンド1月号) 「学園のムフフ」(別冊セブンティーン5月号)	「ハワードさんの新聞広告」(別冊少女コミック6月号) 「ユニコーンの夢」(別冊少女コミック5月号)	

作成 = 小西優里 (図案の案) + 編集部 ※対該中に登場する作品は色で表示しています。

<p>連載中の「アラバクス」第2部と萩尾「アロイス」が同じ雑誌に掲載</p>	<p>「ル・コック」(ティーン15月号) 「ラブソングエル・ラブソング」(別冊少女フレンド6月号) 「アラバクス」第2部(花とゆめ創刊号〜75年22号)</p>	<p>「トーマの心臓」(週刊少女コミック19号〜52号)</p>	<p>「トーマの心臓」(少年と花と愛。80年の訪問者ではトーマの級友オスガの幼少期が語られている)</p>
<p>「妖精王」本格ケルト風ファンタジー連載</p>	<p>「妖精王」(花とゆめ24号〜77年1号) 「バニユキス」(花とゆめ24号〜77年1号) 「アルゴ・ノート」(月刊セブンティーン1月号) 「セイレーン」(花とゆめ3号) 「愛天使」(セラピム) (1983年3月号) 「妖精王」(花とゆめ9号〜78年21号)</p>	<p>「影のない森」(ビッグコミックオリジナル2/5号) 「みずうみ」(霧笛) 原作・レイブラッドベリ(週刊マーガレット9号) 「十年目の秘絵」(ビッグコミックオリジナル3/20号) 「百億の昼と千億の夜」(週刊少年チャンピオン34号〜78年2号)</p>	<p>「百億の昼と千億の夜」(初の少年誌連載作品(原作・光畑)</p>
<p>「ハービー」男子高校生のお笑いを描いた異色サイコ・サスペンス 「天人唐草」(「女らしさ」を強調されて育てられた女性に狂気の瀕へと墜ちてゆく。「お父さん」の背景が黒ベタ」とは萩尾の指摘</p>	<p>「ドリーム」(1982年3月号) 「ハービー」(ラチコミック12月号増刊) 「天人唐草」(週刊少女コミック2号) 「黒のハレネ」(花とゆめ11号) 「雨の訪問者」(月刊セブンティーン7月号) 「ハンター」泣き女」(1983年10月号) 「メデューサ」(別冊奇想天外9号)</p>	<p>「ゴルデンライラック」(別冊少女コミック3/5月号) 「スター・レッド」(週刊少女コミック23号〜79年3号) 「恐るべき子どもたち」 原作・ジャン・ユクトー(月刊セブンティーン5/8月号)</p>	<p>「ゴルデンライラック」(戦争と時代に翻弄され続けた男女ふたりの波瀾万丈な人生を美しく描いた中編)</p>
<p>「日出処の天子」(人外の力を持った摂子王子(=聖徳太子)と、素戔・蘇我家の長子、毛人の麗美な絆を描いた歴史ファンタジー) 「恐怖の甘い物」(「甘い物嫌い」を語り)</p>	<p>「日出処の天子」(1984年4月号、84年6月号) 「悪魔」(マンガ少年5月号) 「恐怖の甘い物」(ギャルスライフ10月号)</p>	<p>「ラーギニー」(SFマガジン2月号) 「訪問者」(フチフラワー春の号) 「メッシュ」(フチフラワー夏の号) 84年6月号まで全11話 「金曜の夜の集会」(SFマガジン11月臨時増刊号) 「銀の三角」(SFマガジン12月号〜82年6月号)</p>	<p>「メッシュ」(金銀2色の壁をした少年、メッシュの葛藤と愛を、本物のパリよりパリらしい街を舞台に描く)</p>
<p>「あやしの館」(「最初に建てた家」についてのエッセイマンガ)</p>	<p>「あやしの館」(FOR LADY 4月号) 「あやしの館」(フチコミック6月号) 「籠の中の鳥」(フチフラワー夏の号) 「ある夜に」(タレーブルーツ創刊号) / 「鬼来迎」(DUO11月号)</p>	<p>「A・A」(プリンセス8月号)</p>	

一 山岸涼子 主要作品 一

一 萩尾望都 主要作品 一

「汐の声」…ポンチキだと書かれていた童謡少女がTVの取材で、本物と出会うってしまっ… ※夜に読まないように!

「化野の…」(フチコミック1月号) / 「夜叉御前」(フチコミック4月号) / 「八百比丘尼」(フチフラワー9月号) / 「汐の声」(フチコミック11、12月号)

「モザイク・ラゼン」(プリンセス9、12月号)

12月、モスクワでバス事故に遭う

「黄泉比良坂」(ポニータ10月号)

「城」(フチフラワー9月号) / 「4 / 4カトルカース」(フチフラワー11月号)

「キメイラ」(フチフラワー5月号) / 「千引きの石」(ぶくけ9月号)

「半神」(フチフラワー1月号) / 「エッグ・スタンド」(フチフラワー3月号) / 「X+Y」(フチフラワー7、8月号)

「半神」…癒着した体で生まれたふたりの少女の複雑な愛情を描く、野田秀樹が舞台化

「馬屋古王女」…「日出処の天子」唯一の続編。厩戸王の血をひく王女が登場。官能的・退廃的サスペンス

「常世長鳴鳥」(グリーンフルーツ21号) / 「馬屋古王女」(ASUKA8月号(創刊号)〜9月号) / 「時じくの音の木の实」(ASUKA10月号)

「ばらの花びん」(フチフラワー2、3月号) / 「きみは美しい瞳」(ASUKA8月号 ※創刊号) / 「マジナル」(フチフラワー8月号〜87年10月号)

「わたしの人形は良い人形」…持ち主であった少女の無念を背負った市松人形が引き起こす怪…夢に出ます!

「わたしの人形は良い人形」(ASUKA2、4月号) / 「木花佐久昆売」(ASUKA6月号) / 「星の赤白き花束の…」(ASUKA9月号) / 「ヤマトタケル」(ASUKA12月号〜87年7月号)

「完全犯罪」(フェアリー) / 「フチフラワー2、4月号) / 「フラワー・フェスティバル」(フチフラワー7月号〜89年7月号)

「パエト」…原発告発エッセイマガ。4月現在、WEBで無料公開中

「パエト」(ASUKA5月号) / 「銀雲金鎖」(ASUKA11月号) / 「牧神の午後」(ぶくけ11、12月号)

「海のアリア」(ASUKA8月号〜91年5月号) / 「海賊と姫君」(フチフラワー9月号) / 「青い鳥」(フチフラワー11月号)

「青い鳥」…所属するバレエ団に幸運をもたらす、青い鳥・ヤンと、彼にやまもよするアシユアとの心の交流を描いた

「牧神の午後」…伝説のヤン・パエトスキのののののような生涯を描く

「バイド・パイパー」(YOUAARVOI2)

「ローマへの道」(フチフラワー1〜9月号)

「朱雀門」(別冊プリンセス2月25日号)

「ロットバルト」(フチフラワー1月号)

「ブル・ロージュ」(YOUAARVOI2)

「ジュリエットの恋人」(フチフラワー3月号)

「貴の暗赤」(YOUAARVOI8)

「感謝知らずの男」(フチフラワー5、7月号)

「感謝知らずの男」…一匹狼な若きバレエダンサー、ヴィの日常と心のうごきをも細やかに追った物語

「二口女」(YOUAARVOI12) / 「月水修羅」(別冊プリンセス5月号)

「狂おしい月星」(フチフラワー3月号) / 「イグアナの娘」(フチフラワー5月号) / 「あぶないアズにいちちゃん」(ASUKA増刊「アズ」夏秋の号) / 「残酷な神が支配する」(フチフラワー7月号〜01年7月号)

「狂おしい月星」…バレエシリアス最後の作品 / 「残酷な神が支配する」…善父からの性的暴力に、深い闇に落ちていく少年、ジェルミ。人間の深淵をえぐる長編

山岸が萩尾作品をリアルタイムで読始める / 「二口女」…現在連載中の「サララン・パララン」に出くくる「由良子さん」が登場

※加えて、復刊後のビッグコミックゴールド7月号に「鬼子母神」掲載

「ゆうれいタクシー」(眠れぬ夜の奇妙な話3月30日号)
「貴船の道」(セリエミステリー5月号)／「肥長比売」(comicトム10月号)

1993
「午後の日差し」(ビッグゴールド14号)
「学校へ行くクスリ」(ビッグゴールド16号)

「黒鳥 ブラック・スワン」(セリエミステリー4月号)
「封印」(LaLa7月号) 95年7月号

1994
「鬼」(comicトム10月号) 96年1月号
「ハトシエブスト」(セリエミステリー10月号)

「ツタンカーメン」(comicトム5月号) 97年4月号

1995
「イシス」(comicトム6) 98月号)／「押入れ」(amie11月号)

「夜の馬」(集書エイズ新装をモチーフにした作品)

1998
「夜の手」(amie3月号)
「青春の時代」(comicトムプラス5月号) 00年2月号

「帰ってくる子」
「チャイルド(異形コレクション) 書き下ろし」

「舞姫」(テレビンコーマ) パレに心身をまよぼもがく千花・六花の姉妹の人生を柱に、かつ愛しく描いた長編

2000
「白眼子」(comicトムプラス5) 99月号
「舞姫」(テレビンコーマ) 第一部(ダ・ヴィンチ11月号) 06年11月号

「ヴィリ」(パレエ作品「ジェル」を手がかりに、女性の業を描いたミステリー)

2006
「柳の木」(ララワーズ5月号)
「オイデイブス・メッセージ3」(ララワーズ9月号)

「山へ行く」(シリーズ) ここではないどこかの第1話。小説家の生方を中心とした作品群の他にも、過去の外国を舞台にした登場する男が狂言回しとして登場する「メッセージ」シリーズ、恋する舞ちゃん(主人公)のシリーズほかを含む。興行きのある短編連作は20話を越えて現在も継続中。11年「春の小川」(シリーズ21話)では、母親に先立たれた少年がその死を受け入れるまでの葛藤と成長を描く

「快談・怪談」(BE・LOVE 23) 24号

2009
「春の小川」(ララワーズ3月号)
「夜の河を渡る」(ララワーズ5月号)

「ケサラン・パサラン」(ダ・ヴィンチ3月号)

2011
「ケサラン・パサラン」(ダ・ヴィンチ3月号)

萩尾先生から山岸先生へ

山岸先生のようなジャンルを描く改革の人が、マンガの世界にいたことで、この表現世界は、広く深く豊かな実りを得ることが出来たと思います。

尊敬しています。きょうも、センスのいいカーディガン。これからも、素敵な作品を待っています。

萩尾望都



『黒の小山』(小学館フラワーコミックス、2011年)山口隆より ©萩尾望都、小学館

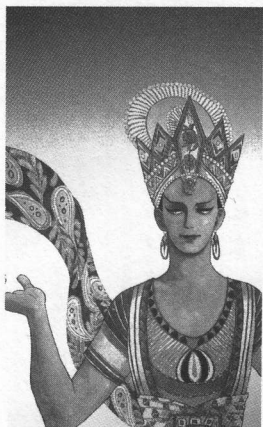
山岸先生から萩尾先生へ

久しぶりに萩尾さんと、ゆっくり話せて嬉しい時間でした。

文中にもありますが、わたしの原作で萩尾さんが描いてくれることがあっても、その逆はありません。

あのいつも風が流れているような、萩尾ワールドはどんなに憧れても描きあられませんから。いや私じゃなく誰にも……。

山岸涼子



『読者の年鑑』(小学館フラワーコミックス、2008年)山口隆より ©山岸涼子、小学館

Profile

萩尾望都 (はぎお・もと)

1949年福岡県出身。69年『ルルとミミ』でデビュー。少女マンガの表現を大きく発展させた。代表作『ポーの一族』『トーマの心臓』『11人いる』『残酷な神が支配する』『バルバラ異界』ほか多数。『月刊フラワーズ』でシリーズ。ここではないどこかを不定期連載中。

山岸涼子 (やまぎし・りょうこ)

1947年北海道出身。69年『レフトアンドライト』でデビュー。心理描写と表現力に高い評価を得る。代表作は『アラベスク』『妖精王』『日出処の天子』『舞姫 テレピンコラ』ほか。恐怖・怪奇幻想作品も多数。『ダ・ヴィンチ』で『ケサラン・パサラン』連載中。

Ryoko Yamagishi × Moto Hagio